

内外経済と金融政策の展望

東京財団政策研究所主席研究員

はやかわ ひでお
早川 英男

- * 緩やかな景気回復軌道にある日本経済
- * 企業収益を押し上げる円安
- * 日本の物価高の背景について
- * 「日本化」を恐れて対応が遅れたFRB
- * 経済より政治重視になった中国
- * 海外金利高で弱点を露呈したYCC政策
- * 「時間軸政策」を主唱してきた植田総裁
- * 早過ぎる利上げを懸念
- * 「ルイスの転換点」という視点に注目
- * 円安と「その他サービス外収支」の関係



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

最初に早川さんご紹介をさせていただきたいと思えます。実は早川さんは、私が日本の景気、マクロ経済を担当していた記者の時代に、お隣の日銀にいらっしやるものですから、どう書いたらいいかわからなくなるとしよっちゅう取材に行つて、いろいろ教えを請うっていた方があります。当時は『金融経済統計月報』というのがあります。毎月出るんですが、読み込んであれやこれや一生懸命聞いておりました。『金融経済統計月報』はもちろん日銀のものなので、本文は整然と書かれているわけですが、脚注がたくさんついていて、そこにそれを書いた人の本当の気持ちが入っていたり、それから非常に論争的な問題については、その脚注

のところ自分の判断をこっそり書いたりしているの、私は注書きのところばかり早川さんに聞いて、本当のところはどう思っているのかというところを探ろうとしておりました。私は当時そんなことをしておりましたので、今早川さんにここに来てお話ししていただくのはたいへん感慨深いものがあります。

実は早川さんには2021年6月にこの場所で講演をしていただきました。そのとき私はここにおりましたが、実はコロナの最中でこのホールは誰もいらっしやらなくて、早川さんが誰もいないホールに向かって熱弁を振るっているのを一人で聞いていたのを思い出します。その当時はまだコロナも非常に危なかったんですが、その中を来ていただいてお話しいただいたわけ